

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成18年10月13日(金) 5校時

児 童 男子6名 女子8名 計14名

指導者 石 井 雅 彦

1 単元名 六 だいじなところに 気をつけて読もう

2 教材名 サンゴの海の生きものたち(もとかわ たつお)

3 単元について

(1) 指導事項について

本単元の主たる指導事項は、「読むこと」については、「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」(読イ)「相手や目的を考えながら、書くこと」(書ア)である。これらの力を育てるためには、「海の生き物たちに共生の様子を知り、大事な点をおさえて読むこと」「初め・中・終わり」というおおまかな文章構成を把握する力、「相手の立場や気持ちを考えて楽しみながら書く」力を育てる必要がある。本単元では、「海の生き物の暮らしに興味をもち、大事なところに気をつけて読むとともに、自分の考えを楽しく書く」ことを目標とする。

(2) 教材について

本単元は、「サンゴの海の生きものたち」で海の生き物たちが互いに役立って暮らしていることについて、事柄の順序を考えながら読んだことをもとに、生き物について本や図鑑を読んで初めて知ったことや不思議だと思ったことを発表することにより、表現力を培うことをねらいとしている。

本教材は、サンゴの海の生き物たちのかかわり合いについて書かれており、その文章構成は、「初め」「中(中1・中2)」「終わり」になっていて、整っている説明文である。共生という関係を読み取るために、第一段落に「それらの中には、たがいに、やくに立つようにかかわりあって、くらしているものがあります。」という一文があり、この言葉がこの教材文のキーワードとなっている。また、第二段落の「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。」という話題提示文で読みの視点をもたせ、説明文の全体構想も意識させるようになっている。

以上のことから、本教材は普段はあまり目にする事のないサンゴの海の生き物の共生の関係を読み取り、そのかかわり合いを動作化することによって理解を深め、自分の立場をはっきりさせてかかわり合っている相手にお礼の手紙を書く活動を行うことに適した教材であると考えられる。

(3) 児童について

子どもたちは「たんぼぼのちえ」において、自分が見つけたたんぼぼの様子について、読み取ったことを生かして働かせている知恵と関連づけてカードにまとめ発表する活動を行った。それらの活動を通して、時間の順序や理由づけを示す言葉に気をつけて読むことができるようになってきている。しかし、様々な説明の中から中心的な対象や事柄に着目できる子は、まだ少ない。また、様子と知恵を表すときの文末表現の違いに気をつけて書くことはできるが、読み取ったことを自分の言葉で話したり、相手の気持ちを考えて書くまでには至っていない。

そこで、動作化などを取り入れることによって本教材に登場する生き物の関係を明確にし、書く活動につなげていきたい。

(4) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、以下に挙げることについて留意しながら進めていきたい。

生き物の特徴を挿絵を手がかりにして考えさせることにより、知っていることを改めて考えさせたり、新しく気づかせることによって、知的好奇心を刺激して文章を読む意欲を高める。

第一次では、大事なところに気をつけて読むために、「どんな生き物が出てくるか」「出てくる

生き物の特徴は何か」「どんなかかわり合いをしているか」といった読みの視点をもって読むようにする。

第二次では、生き物になりきって自分の体を動かしたり、話したりする活動を取り入れ、かかわり合っている相手にお礼の手紙を書くことによって、生き物のかかわり合いをより深く理解できるようにする。

第三次では、図鑑の中から興味をもった生き物について「生きものカード」を書かせ、紹介しあう。

4 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

海の生き物の共生関係や説明文の組み立てに興味をもって読もうとする。

【書く能力】

生き物について書いてある本を探し、知りたいことなどを調べ、分かったことを「生きものカード」に書くことができる。(書イ)

【読む能力】

・海の生き物たちが互いに役立って暮らしていることを、事柄の順序を考えながら読むことができる。(読イ)

・語や文のまとまりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読む。(読工)

【言語についての知識・理解・技能】

片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。(言イ(ア))

5 指導計画と評価規準(11時間)

次	時	学 習 内 容	評 価 規 準	リンク
第 一 次	1	写真を見て、サンゴの海のイメージを広げ、気づいたことを発表する。	【関】写真から想像を広げ、海の生き物について興味をもって読もうとしている。	
	2	全文を通読し、初めて知ったことや不思議に思ったことを書く。	【関】海の生き物について興味をもって読もうとしている。 【書】初めて知ったことや不思議に思ったことを書いている。	・教科書に出てくる生き物のつながり(共生関係)を意識しながら読ませる。
	3	初発の感想をもとに、学習計画を立てる。	【関】初発の感想をもとに学習課題を考え学習の見通しをとらえている。	・本文を読んで、不思議に思ったことなどを明らかにするための学習計画を立てさせる。
	4	新出漢字や語句の学習をする。	【言】新出漢字や語句を理解している。	
第 二 次	5	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。	【読】イソギンチャクとクマノミの特徴とかかわり合いを読み取っている。	・お礼の手紙を書かせるために、相手にしてもらっていることとしていることを明確にさせる。

次	6	生き物になりきって説明し、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめ、お礼の手紙を書く。	【書】互いに守り合っていることを読み取り、お礼の手紙を書いている。	・ 読み取ったことをもとに、相手にしてもらっていることとその時の心情を書かせる。
	7	ホンソメワケベラの特徴と大きな魚とのかかわり合いを読み取っている。	【読】ホンソメワケベラの特徴と大きな魚とのかかわり合いを読み取っている。	・ お礼の手紙を書かせるために、相手にしてもらっていることとしていることを明確させる。
	8	生き物になりきって説明し、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめ、お礼の手紙を書く。 (本時)	【書】相手にしてもらっていることをはっきりさせ、かかわり合っている相手へお礼の手紙を書いている。	・ 読み取ったことをもとに、相手にしてもらっていることとその時の心情を書かせる。
第三 次	9	海の生き物について振り返り、他の生き物について本を読み、「生き物カード」に書く材料を集める。	【関】図書館で本を探し、生き物カードに書く材料を進んで集めている。	・ 初めて知ったことや驚いたことなどをメモに書かせる。
	10	分かったことを文章にまとめ、生き物カードに書く。	【書】集めた材料をもとに、気づいたことを生き物カードに書いている。	・ メモをもとにして生き物の特徴をカードに書かせる。
	11	「生き物カード」を発表しあう。	【関】書いた生き物カードを積極的に発表しようとしている。	

6 本時の指導

(1) 指導の構想

本時の学習では、自分の立場をはっきりさせ、ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを動作化することによって、相手にしてもらっていることを明確にし、かかわり合っている相手にお礼の手紙を書く。お礼の手紙を書くときに迷わないように、イソギンチャクとクマノミの学習の際に書いた児童のお礼の手紙をモデル文として提示する。

(2) 目標

立場をはっきりさせて、かかわり合っている相手に、お礼の手紙を書くことができる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師の支援と働きかけ	評価(方法)
----	---------	------------	--------

つ か む 5 分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> かかわり合っているあい手に、おれいの手紙を書こう。 </div></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラと大きな魚の事実を考えて、吹き出しに書いたことを想起する。 	
ふ か め る 35 分	<p>3 ホンソメワケベラと大きな魚になって、かかわり合っている様子を身体で表現する。 【ペア学習】</p> <p>4 かかわり合っている相手に、お礼の手紙を書く。 【一人学び】</p> <p>5 書いた手紙を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を明確にしてからペア学習を行う。 ・動作化の最後に、ホンソメワケベラ・大きな魚の気持ちを言わせるようにする。 ・動作化に困っている児童にはかかわり合いを確認したり、教科書の写真を見せるようにする。 ・前時までに書いた児童の「お礼の手紙」をモデル文として示し、イメージをもたせるようにする。 ・立場をはっきりさせ、相手にしてもらっていることを手紙に具体的に示してから書くようにさせる。 ・それぞれの立場から2～3名ずつ発表させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> かかわり合っている様子を身体で表現することができたか。 (動作化) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 立場をはっきりさせて、相手へのお礼の気持ちが伝わるように書けている。(手紙) </div>
ま と め る 5 分	<p>6 自己評価をする。</p> <p>7 次時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立場をはっきりさせて、お礼の手紙を書くことができたか自己評価させる。 ・生き物についての本を図書館で読み、生きものカードをつくることを確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 立場をはっきりさせて、お礼の手紙を書くことができたか。(ワークシート・挙手) </div>

(4) 具体の評価規準

評価規準	十分満足できる児童の姿の例	努力を要する児童への手立て
相手にしてもらっていることをはっきり示したお礼の手紙を書いている。	相手にしてもらっていることをはっきり示し、それによって助かっていることを付け足したお礼の手紙を書いている。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを振り返らせ、どんなことで助けられているかに気付かせる。